



広島

社内改革 働きがいに関

「働きやすさだけを追求する改革に疑問があった」と語るのは、住宅リフォームのマエダハウジング（広島市中央区）の前田政登社長。世界60カ国で働きがいに関する認定、ランク付けに取り組む専門機関GPTWから、広島県で初めて「働きがいのある会社」の認定を受けた。

3年前から時間外労働の削減や有給の取得率の向上に取り組んできたが、「誇りを持って仕事に取り組むことも重要」と説明。「人材育成」「地域貢献」などの社内委員会を若手に任せると、やりがいを感じてもらおう工夫も重ねる。

取り組みを進める中で社員の意見を聞き取り、組織の課題が見えてきた。「これからも働きがい向上に挑戦する」

（松本真由子）

ひとこと

竹原



農福連携 成功させたい

「農業への進出を通じて社会貢献を図る」と話すのは、パン製造の八天堂（三原市）の林義之常務。1月から運営に乗り出した竹原市内のブドウ園で、「農福連携」の取り組みを進めている。

約0・8畝でピオーネなど約10品種を栽培。引きこもり傾向や精神疾患のある人たちに働く場を提供する事業の一環で、市内の社会福祉法人が雇用する1人を受け入れ、社員と一緒に作業してもらっている。

ブドウはデザートや菓子に加工し、自社の店舗で販売する計画。「収穫物が商品化されることで達成感につながってほしい」。後継者不在の農園を企業が承継した例としても注目される。

「運営を成功させ、取り組みを広げていきたい」

（渡部公揮）